

見よ
村年初宗貞良清村昭伊勢丸伊織遠江守從四位下侍從。
○伊達

不存院具御書

享保四年正月二十二日先に仰をうけて赤坂溜池の普請をつとむるところ六月
二十三日有徳院殿吉察徳川駒場所より還御のときその地に成せたまひ懇の仰をか
うぶり家臣等も拜謁す八月二十八日その事成により時服二十領を賜ひ家臣等に
も物をたまふ。
——寛政重修諸家譜

廿三日丙申

○享保四年(紀元二二七九)
年)正月○丙申、三正綜覽。

武家防火ノ制ヲ示達ス。

○柳營日次
記。享保四録。

武家防火制
武家防火制
事蹟

武家防火制

左ノ示達有り。

廿三日 正月○享保四年
○中略。

一、大久保佐渡守春○常御目付御使番に被仰聞ひ趣

一、大名衆屋敷近所出火之節、人數被出ひ義屋敷廻り二三町と被仰出ひて、小火之内駈
付も至出ひ處をまめし積り之をい。夫故人數小勢之分を不苦い。早く駈付い様と相
達い様之屋敷廻り二三町之外迄も人數被出ひ程遠く人數被出ひ内之を火幅も廣く
成、無詮事之の間、彌屋敷廻り二三町を限り、火事ひろらさる内かけつけい様之能々
可被申通ひ事。

但、出火之場所之より、近所人数被出ひ程之屋敷無之處を、少し程遠く共、人數被出
可然事。

一、小身衆之近所出火之節、火事装束も不被致平服之を見廻りい様之可申合ひ。此儀も
爲心得可被申通ひ。

股 昌 期

三六三